



# 交通安全の価値を考える



小林 眞

愛知県春日井警察署長等を歴任し、平成28年より「AAKK」専務理事。「安全運転を習慣とすること、そのための努力を惜しまないこと」を提案している。

第3回

## 警察官が交通違反を取り締まる理由 その1

警察官が交通違反を取り締まる理由、それは交通事故を減らすために違いありません。

どんな違反をどのように取り締まるか、どんな交通事故がどのように減るのかを考えて取締計画を立てていきます。警察は、取り締まる仕事が仕事なのでなく、それによって交通事故を減らすことが仕事だからです。

ドライバーの方々は取締りを受ける立場ですから、その理由なんて考えても仕方がないと思うかもしれませんが、それを考えることで違反をしないことの価値が見つかるかもしれません。

違反しないことの価値、一般的には反則金という金額と処分点数ということとしか思いつかないかもしれませんが、それにはもっと大きな価値があるはず

です。運転中のドライバーの意識、その大半は「事故をしないように」、そして「検挙されないように」ではないでしょうか。つまり、交通ルールを守り、違反をしない運転を目的とするのではなく、事故さえ起こさなければ多少の違反をしても検挙されなければいいという考え方です。しかし、こうしたドライバーの意識が現在の交通情勢を形成し、その結果としてヒューマンエラーによる事故は減らず、死亡事故はな

くなりません。

.....  
K警察署の署長は、将来に向けて交通事故の総量抑制を図るためには、まずこうした現状に変化を与えなければならぬと考えていました。そして、子供の事故が増えていく管内の情勢を踏まえ、横断歩行者妨害という違反を継続的に検挙することで交通環境に変化を与え、子供と歩行者の事故を減らすと署員に説明しました。

「子供に横断歩道を渡れと教えるのであれば、横断歩道は車が止まる場所で作らなければならない。そうした交通環境を作るのは大人の責任であり、警察組織の仕事であります。

横断歩道で待っていても車は止まってくれません。だから子供は横断歩道ではない近くの場所を渡り、事故に遭う。すると大人は叱る。『横断歩道を渡れって言っただろう！』それを聞いた子供は何を感じるか。『だって、横断歩道で待っていたって車は止まってくれないじゃないか！』という、大人に対する不満と反発です。

一方、車が止まってくれる横断歩道で育った子供は、横断歩道は車が止まるものと信じて育つ。そして十年後、小学校3年生だった子供は最初から横断歩道で止まるドライバーになります。



横断歩行者妨害という違反を市内全域で継続的に検挙することを通じて、横断歩道で車が止まる交通環境を確保し、将来の交通環境を変える。そのための活動なのです」

.....  
途中、市民から反発もあった。

「横断歩行者妨害という違反なんてこれまで馴染みがない。それが違反であることを知らないドライバーも多いのだから、いきなり検挙なんて厳しすぎる。最初は指導警告でいいのではないか。指導警告なら素直に反省できるが、いきなり検挙されれば市民の反発を招くのではないか」

署長は答えた。

「検挙しなければダメです」  
以下、次号に続く。